

言語学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
言語学概論Ⅰ	言語学入門(基礎)	2	内藤 真帆	3	金曜2限
言語学概論Ⅱ	言語学入門(運用)	2	木山 幸子	4	木曜2限
言語学基礎講読Ⅰ	言語学への招待Ⅰ	2	小泉 政利	3	金曜1限
言語学基礎講読Ⅱ	言語学への招待Ⅱ	2	小泉 政利	4	金曜1限
言語学基礎演習Ⅰ	言語のパラメトリックデータ分析	2	木山 幸子	3	火曜3限
言語学基礎演習Ⅱ	言語のカテゴリカルデータ分析	2	木山 幸子	4	火曜3限
音声学Ⅰ	音声学概説・調音音声学	2	内藤 真帆	3	水曜3限
音声学Ⅱ	音響音声学・聴覚音声学	2	内藤 真帆	4	水曜3限
言語学各論Ⅰ	外国語教育実証研究法	2	加藤 万紀子	5	金曜2限
言語学各論Ⅱ	音韻論概説Ⅰ	2	那須川 訓也	5	火曜2限
記述言語学各論	フィールド言語学の実践と理論	2	内藤 真帆	5	水曜4限
理論言語学各論	統語論入門	2	小泉 政利	5	木曜1限
実験言語学各論	コーパスを活用した定量的言語研究法	2	木山 幸子	5	木曜2限
言語交流学各論(学習・言語心理学)	学習・言語心理学の基礎	2	木山 幸子	5	水曜2限
言語学論文演習Ⅰ	言語学研究法Ⅰ	2	小泉 政利	5	金曜3限
言語学論文演習Ⅱ	言語学研究法Ⅱ	2	小泉 政利	6	金曜3限

言語学

言語学演習Ⅱ	音韻論概説Ⅱ	2	那須川 訓也	6	火曜2限
記述言語学演習	未知の言語の調査と分析	2	内藤 真帆	6	水曜4限
理論言語学演習	統語論と文解析	2	小泉 政利	6	木曜1限
実験言語学演習	言語実験の実践	2	木山 幸子	6	水曜2限

科目名：言語学概論 I

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：内藤 真帆

コード：LB35201, **科目ナンバリング：**LHM-LIN215J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語学入門（基礎）

2・授業の目的と概要：言語学の基礎的な概念を理解すると同時に、さまざまな言語との分析・比較を通して日本語を客観的に理解する。また世界の言語の普遍性と多様性を理解する。

3. 学習の到達目標：①言語学の基礎的な概念を理解し、言語学的な視点からさまざまな言語の分析ができる
②他言語との分析を通して日本語を客観的に捉えることができる
③世界の言語の普遍性と多様性を理解し、説明することができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・言語と言語学
2. 音声学 1：日本語の子音と母音、英語の子音と母音
3. 音声学 2：世界の言語の子音と母音
4. 音韻論 1：音声と音素
5. 音韻論 2：拍と音節、韻律（日本語と英語を対象に分析・比較する）
6. 形態論 1：形態素、接辞、語形成のプロセス
7. 形態論 2：形態素分析（日本語、英語、その他の世界の複数言語を対象に分析を行う）
8. 統語論 1：統語構造
9. 統語論 2：統語分析（日本語と英語を対象に分析・比較を行う）
10. 意味論 1：命題、モダリティ、ヴォイス
11. 意味論 2：テンス、アスペクト
12. 類型論 1：言語の系統と言語類型論
13. 類型論 2：世界の言語と日本語（複数言語を分析・比較する）
14. 言語の系統
15. 振り返りとまとめ

5. 成績評価方法：期末試験 70%、発表 30%

6. 教科書および参考書：適宜、資料の配布および参考書等の紹介を行います。

7. 授業時間外学習：毎週、事前に示された内容の予習および講義の復習をして下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部です。

科目名：言語学概論Ⅱ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：木山 幸子

コード：LB44203, 科目ナンバリング：LHM-LIN216J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：言語学入門（運用）

2・授業の目的と概要：ことばは、自身の内的な動機に応じて、様々な状況で、様々な相手と、様々な目的で用いられます。「語用論」は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問です。本科目では、語用論的に見て動きのある身近な言語現象を取り上げながら、これまでに発展してきた語用論の理論の概要を理解し、それらの理論を実証的に検証した主要な先行研究の要点を把握します。

3. 学習の到達目標：身近な言語現象を語用論の視点から独自に分析的に考えられるようになる。また、実際の言語使用は使用者の特性（個人間の差および個人内の変化）に大きく左右されるものであることへの理解と受容の態度を持つ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) あいさつ：対人関係構築の端緒を開く
- (2) 呼称：人をどう呼ぶか？呼ばないか？
- (3) あいづち：促しか？さえぎりか？
- (4) 敬語の古今：通時的变化をたどる
- (5) 敬語の東西：共時的变化をたどる
- (6) 間接的発話行為：なぜはっきり言わないの？
- (7) ことばと感情：話し手の気持ちが現れる言語マーカー
- (8) 子どものことば：発達における共同注意の役割
- (9) ことばの性差：遺伝的影響？環境的影響？
- (10) 母語と外国語：その習得過程の違い
- (11) ことばと加齢：衰える機能、保たれる機能、向上する機能
- (12) ことばの障害：語用論的处理を中心に

5. 成績評価方法：毎回授業の最後に課す小課題（50%）、最終筆記試験（50%）

6. 教科書および参考書：指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

7. 授業時間外学習：毎回とりあげるテーマに関連の深い文献を紹介するので、それを読むこと。また、授業でとりあげた話題に照らして、日常的に使われていることばの機能を考え直していただくこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

本授業は、前期に開講される「言語学概論Ⅰ」とは独立しているので、前期の授業を受講していなくても差し支えない。本授業では、出席を重視する。本授業は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：言語学基礎講読 I

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小泉 政利

コード：LB35102, **科目ナンバリング：**LHM-LIN217J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語学への招待 I

2・授業の目的と概要：英語で書かれた言語学の入門書の講読を通じて、言語学の基礎を身につけます。

3. 学習の到達目標：英語で書かれた言語学の文献が読めるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 Guidance
- 2 Why study linguistics
- 3 How English has changed over the centuries
- 4 How words are made
- 5 How words mean
- 6 How phrases are formed
- 7 How sentences are formed
- 8 How sentences mean
- 9 How to communicate with other people
- 10 The sounds of language
- 11 Regional varieties
- 12 Language in Society
- 13 How language is acquired
- 14 How a second language is acquired
- 15 Review and exam

5. 成績評価方法：概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・試験：20%

ただし、筆記試験の答案の提出を単位認定の要件とします。

6. 教科書および参考書：教科書

Kegeyama, Taro et al. First Steps in English Linguistics. 2nd Edition. Kuroshio Publisher.

7. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：言語学基礎講読Ⅱ

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小泉 政利

コード：LB45103, **科目ナンバリング：**LHM-LIN218J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語学への招待 II

2・授業の目的と概要：英語で書かれた言語学の入門書の講読を通じて、言語学の基礎を身につけます。

3. 学習の到達目標：英語で書かれた言語学の文献が読めるようになること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 Guidance
- 2 Scientific Approach to Language
- 3 Rationalism versus Empiricism
- 4 Universal Grammar
- 5 Lexical and Functional Categories
- 6 Syntax: The Core of Grammar
- 7 Generalizing Phrase Structures: X'-Theory
- 8 Reformulating Clause Structures
- 9 Thematic Roles
- 10 Passivization: Case and NP-movement
- 11 Anaphors, Pronominals, and R-Expressions
- 12 Quantifier Scope
- 13 NP/DP and PP
- 14 Unaccusativity
- 15 Review and exam

5. 成績評価方法：概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・試験：20%

ただし、筆記試験の答案の提出を単位認定の要件とします。

6. 教科書および参考書：教科書

Kishimoto, Hideki. Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective. Hituzi Syobo

7. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：言語学基礎演習 I

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：木山 幸子

コード：LB32308, **科目ナンバリング：**LHM-LIN219J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語のパラメトリックデータ分析

2・授業の目的と概要：本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。言語使用に関する共通データについて、統計ソフトウェア R を使いながら主要な分析方法を体験します。とくに今期は、連続量の平均や分散に基づくパラメトリックデータの分析を扱います。

3. 学習の到達目標：言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を、とくにパラメトリックデータの側面について把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) 変数、記述統計、統計的検定、推測
- (2) 相関分析
- (3) t 検定
- (4) 分散分析
- (5) 回帰分析
- (6) 共分散分析
- (7) 線形混合モデリング

5. 成績評価方法：実習（50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（30%）、期末テスト（20%）

6. 教科書および参考書：指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

7. 授業時間外学習：実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：言語学基礎演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：木山 幸子

コード：LB42308, **科目ナンバリング：**LHM-LIN220J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語のカテゴリカルデータ分析

2・授業の目的と概要：本科目では、言語研究に必要な統計的データ分析の実習を行います。言語使用に関する色々なデータについて、統計ソフトウェア R を使いながら主要な分析方法を体験します。とくに今期は、カテゴリカルデータ（ある基準によって分類された離散データ）の分析を扱います。

3. 学習の到達目標：言語研究で用いられる基本的な統計分析手法の要点を、とくにカテゴリカルデータの側面について把握し、自身が扱う言語データについて研究課題に応じて適切な分析法を応用できる素地を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) 記述統計、統計的検定、統計的推測
- (2) カイ二乗検定
- (3) 残差分析
- (4) 評定者間信頼性分析
- (5) クラスタ分析
- (6) 判別分析
- (7) 決定木分析
- (8) ロジスティック線形混合モデリング

5. 成績評価方法：実習（授業および宿題 50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（30%）、期末テスト（20%）

6. 教科書および参考書：指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

7. 授業時間外学習：実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：音声学Ⅰ

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：内藤 真帆

コード：LB33307, **科目ナンバリング：**LHM-LIN221J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：音声学概説・調音音声学

2・授業の目的と概要：音声産出のメカニズムと各音声器官の働きを把握したうえで、世界の言語音を対象に、「聞き取り・国際音声記号（IPA）を用いた書き取り・発音」の3点を実践的に身につけます。音声と書記法の違いを理解するほか、同化・異化、強勢など、聞き取った音声をもとに分析や考察も行います。

3. 学習の到達目標：①世界の言語音の調音を理解し、聞き取り、国際音声記号（IPA）を用いた書き取り、発音ができるようになる。

② 聞き取った音声をもとに音声と書記法の違いや同化・異化など音韻論的な分析ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音声学とは—音声産出・音の物理的性質・音の知覚
2. 音声器官と音声産出のメカニズム
3. 調音位置と調音方法
4. 国際音声記号
5. 子音1. 破裂音・鼻音・ふるえ音
6. 子音2. はじき音・摩擦音・接近音
7. 補助記号を用いた書き取り
8. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習1
9. 母音の性質と特徴
10. 単母音と二重母音
11. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習2
12. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習3
13. 音素と音声特徴
14. 拍と音節・強勢とピッチ・同化と異化
15. プロソディー

5. 成績評価方法：定期試験（70%）、発表（30%）

6. 教科書および参考書：適宜、資料を配布します。

（参考書）J. C. Catford, A Practical Introduction to Phonetics, Oxford University Press (2002)

7. 授業時間外学習：授業後には調音位置・調音方法を復習したうえで発音の復習・練習を繰り返して行ってください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

音声学Ⅱ（後期開講）の受講希望者は、本講義（音声学Ⅰ・前期開講）を受講して下さい。

本講義は登録日本語教員養成プログラムの一部です。

科目名：音声学Ⅱ

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：内藤 真帆

コード：LB43306, **科目ナンバリング：**LHM-LIN222J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：音響音声学・聴覚音声学

2・授業の目的と概要：言語音の物理的性質を実験的観察によって理解すると同時に、音を知覚するメカニズムを学びます。実験的観察ではパソコンを利用して、母音・子音の録音と分析実習を行い、調音と音声性質の相関性を科学的に分析する力を身につけます。さらにその発展的応用についても検討します。

3. 学習の到達目標：・音声の物理的側面を理解し、科学的に分析する手法を身につける。
・分析により、連続した音声から個々の音の特徴を導くことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音響音声学・聴覚音声学とは
2. 聴覚器官と音の知覚
3. 純音と複合音
4. 波長・周期・周波数
5. 音源・共鳴・音源フィルター理論
6. パソコンを用いた音響分析の方法
7. 子音の調音と特徴
8. 共鳴音の波形とスペクトログラム
9. 阻害音の波形とスペクトログラム
10. 有声音と無声音
11. 母音の調音と特徴
12. 母音のフォルマント周波数
13. 狭帯域分析・広帯域分析
14. 聴覚現象
15. 音声性質・音の知覚にもとづく発展研究

5. 成績評価方法：定期試験（70%）、発表（30%）

6. 教科書および参考書：適宜、資料を配布します。
(参考書) Keith Johnson, Acoustic and Auditory Phonetics, Wiley-Blackwell (2011)

7. 授業時間外学習：波形を分析するためには調音音声学の知識が必要になるため、予習と復習を行ってください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

音声学Ⅰの知識を前提とした内容になりますので、受講希望者は事前に音声学Ⅰ（前期開講）を受講してください。
講義には毎回パソコンを持参してください。

科目名：言語学各論 I

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：加藤 万紀子

コード：LB55203, 科目ナンバリング：LHM-LIN329J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：外国語教育実証研究法

2・授業の目的と概要：外国語教育における実証研究は、研究デザインから分析結果の報告に至るまで科学的な手法に沿って行われます。そして実証研究論文では、実験方法、実験参加者、実験手続きなどの詳細を研究結果とともに詳しく報告する必要があります。この授業では、外国語教員を目指す学生だけではなく言語学分野における実証研究を行うことを予定している学生を対象に、実証研究を行う上での基本的な知識を習得した上で、研究デザインの作成、データの分析、結果の報告のし方を学びます。

3. 学習の到達目標：1) 研究課題を設定することができる。

2) 研究デザインを作成することができる。

3) 研究課題を解決するためのデータ収集と分析方法を決めることができる。

4) 適切な方法で分析結果を報告することができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回目：オリエンテーション

第2回目：研究テーマの見つけ方、研究課題の設定の仕方

第3回目：実証研究の種類と研究デザイン・アプローチの種類

第4回目：データ収集の方法

第5回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第6回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第7回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第8回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第9回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第10回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第11回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第12回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第13回目：混合研究法の紹介とデータ収集・分析の方法

第14回目：研究デザイン作成の方法

第15回目：分析結果の報告方法

5. 成績評価方法：・小テスト（30 %）2 回目から 15 回目の授業で毎回行います。

・リアクションペーパー（20 %）毎回の授業で行います。

・授業参加（20%）授業でのディスカッションや練習に積極的に参加して下さい。

・研究デザイン（30 %）詳細な研究デザインを作成し、学期の最後に提出をしてもらいます。

6. 教科書および参考書：授業で資料を配布します。

推薦図書は授業で紹介します。

7. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。興味のある研究テーマを見つける。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：言語学各論Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：那須川 訓也

コード：LB52204, **科目ナンバリング：**LHM-LIN330J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：音韻論概説Ⅰ

2・授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

3. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の（i）母語の音体系，（ii）音現象を制御する規則，（iii）文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論とは何か。

第2回：音韻論と音声学

第3回：規則体系としての言語

第4回：言語機能

第5回：中核文法と周辺体系

第6回：音素論

第7回：音素と異音

第8回：対立分布と相補分布

第9回：異音規則

第10回：音配列論

第11回：音韻範疇

第12回：母音素性

第13回：母音弱化

第14回：子音素性

第15回：子音軟音化

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

5. 成績評価方法：レポート課題×2（60%），確認テスト×1（40%）

6. 教科書および参考書：教科書： 小泉 政利（編）2016.『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版.

7. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：記述言語学各論

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：内藤 真帆

コード：LB53403, **科目ナンバリング：**LHM-LIN331J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：フィールド言語学の実践と理論

2・授業の目的と概要：フィールド言語調査の基本的な流れを、言語選定・調査地の探し方から調査票作成、調査・分析まで実践的に学びます。異なる言語集団の接触により誕生したピジン・クレオールを対象とし、基本的な音声・形態・文構造・意味の分析によりその言語特徴を明らかにするほか、音声と書記法・言語と国家・言語政策・言語接触・威信・借用などの社会言語学の観点からも分析・考察します。併せて、文化・歴史と関連させた言語人類学の観点からも考察します。なお比較・対照のために複数の言語データを扱います。

3. 学習の到達目標：・ピジン・クレ奥ールの言語特徴を分析により導く。
・言語調査の方法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. フィールド言語学・記述言語学とは
2. 調査地・調査言語の選定方法・調査許可
3. 調査方法・調査準備・調査票 1 の作成
4. ピジン・クレ奥ールの背景
5. ビスマタ語の聞き取り
6. 現地語の聞き取り
7. 3 言語の音声・音韻・形態の分析と比較
8. 仮説の設定と調査票 2 の作成
9. 3 言語の句構造・文構造の比較
10. 名詞・動詞のパラダイム、意味体系の比較
11. 仮説の設定と調査手法
12. 3 言語の比較から導くピジン・クレ奥ールの特徴
13. 音声と書記法、言語と国家、威信、借用
14. 言語接触のプロセスと言語変化
15. 社会言語学・言語人類学的分析と発展研究

5. 成績評価方法：定期試験（70%）、発表（30%）

6. 教科書および参考書：適宜、資料を配布します。

7. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：理論言語学各論

曜日・講時：木曜 1 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小泉 政利

コード：LB54101, **科目ナンバリング：**LHM-LIN332J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：統語論入門

2・授業の目的と概要：この授業では、まず統語論の基本的な概念と原理を学び、その後にさまざまな統語現象の分析事例に触れます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

3. 学習の到達目標：統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。
身近な言語現象について自分なりに分析しようとする姿勢を身につけること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 Guidance
- 2 Scientific Approach to Language
- 3 Rationalism versus Empiricism
- 4 Universal Grammar
- 5 Lexical and Functional Categories
- 6 Syntax: The Core of Grammar
- 7 Generalizing Phrase Structures: X'-Theory
- 8 Reformulating Clause Structures
- 9 Thematic Roles
- 10 Passivization: Case and NP-movement
- 11 Anaphors, Pronominals, and R-Expressions
- 12 Quantifier Scope
- 13 NP/DP and PP
- 14 Unaccusativity
- 15 Review and exam

5. 成績評価方法：概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・試験：20%

正し、試験の答案の提出を単位認定の要件とします。

6. 教科書および参考書：教科書

Kishimoto, Hideki. Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective. Hituzi Syobo

7. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：実験言語学各論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：木山 幸子

コード：LB54204, **科目ナンバリング：**LHM-LIN333J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：コーパスを活用した定量的言語研究法

2・授業の目的と概要：テキストの集積であるコーパスは、言語学やその関連領域の研究に様々な形で活かされています。本授業では、まず前半でコーパスを利用した研究の可能性を把握した上で、定量的研究をする上での基本的事項や処理・分析法を学びます。後半では、コーパスを利用した実際の定量的研究事例を深く理解し、受講生自身のことばに関する関心事をコーパスによって確かめる作業を行います。

3. 学習の到達目標：コーパス言語学の歴史と可能性を理解する。実際にコーパス研究を体験し、言語の科学研究の方法論を習得し、学位論文研究を主体的におこなうための素地を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している：

- (1) ガイダンス（教員）
- (2) 多様な言語資源、コーパスの概要①（教員）
- (3) 多様な言語資源、コーパスの概要②（教員）
- (4) コーパスを活用した研究紹介（ゲスト①）
- (5) コーパスを活用した研究紹介（ゲスト②）
- (6) コーパスを活用した研究紹介（教員）
- (7) コーパスデータの検索・分析法（教員）
- (8) コーパス研究プロジェクト立案①（受講生）
- (9) コーパス研究プロジェクト立案②（受講生）
- (10) コーパス研究プロジェクト課題設定①（受講生）
- (11) コーパス研究プロジェクト課題設定②（受講生）
- (12) コーパス研究プロジェクト分析①（受講生）
- (13) コーパス研究プロジェクト分析②（受講生）
- (14) コーパス研究プロジェクト分析③（受講生）
- (15) 最終成果プレゼンテーション（受講生）

5. 成績評価方法：期末レポート（50%）、発表分担（30%）、毎回授業の最後に課すワークシート（20%）によって評価する。

6. 教科書および参考書：指定しない。講読する文献を配布する。

7. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当し、共同プロジェクトを進めてもらうので、自分の分担作業は責任をもって着実にを行うこと（その自信がない場合は受講しないこと）。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：言語交流学各論（学習・言語心理学）

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：木山 幸子

コード：LB53204, **科目ナンバリング：**LHM-LIN322J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：学習・言語心理学の基礎

2・授業の目的と概要：学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの知見を得るために対してなぜそのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。

3. 学習の到達目標：学習・言語心理学の考え方や方法論の概要を理解する。当該領域の文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

- (1) ガイダンス（教員）
- (2) 学習心理学の概要（教員）
- (3) 言語心理学の概要（教員）
- (4) 生得的行動（受講生）
- (5) レスポンデント（古典的）条件づけ（受講生）
- (6) オペラント（道具的）条件づけ（受講生）
- (7) 問題解決（受講生）
- (8) 技能学習（受講生）
- (9) 社会的学習（受講生）
- (10) 音声・音韻の発達（受講生）
- (11) 語彙の発達（受講生）
- (12) 文法の発達（受講生）
- (13) 談話・会話処理の発達（受講生）
- (14) 言語に関わる障害（受講生）
- (15) まとめ（教員）

5. 成績評価方法：期末レポート（50%）、発表分担（30%）、毎回授業後の課題（20%）

6. 教科書および参考書：教科書：木山幸子他（2022）『学習・言語心理学（ライブラリ心理学の杜 7）』サイエンス社

7. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと（その自信がない場合は受講しないこと）。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

本授業は登録日本語教員養成プログラムの一部である。

科目名：言語学論文演習 I

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：小泉 政利、木山 幸子、内藤 真帆、加藤 万紀子

コード：LB55305, 科目ナンバリング：LHM-LIN334J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：言語学研究法 I

2・授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による発表および質疑応答の形式で行う。

3 年生は論文紹介の発表を行う。自分の関心により論文を選択し、論文の目的、方法、結果、考察についての確にハンドアウトにまとめて紹介する。その際、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項について「批判的な姿勢」から学びとる。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

4 年生は卒業論文の研究計画を発表する。テーマの選択や先行研究の動向についてまとめ、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果と意義などについて、できるだけ具体的な経過と見通しを発表する。(10 月の中間発表に備えて、9 月末までに調査・実験等のデータ収集を終えられるように研究を進めること。)

その日の発表者以外の参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書くための方法を学びとる。

3. 学習の到達目標：言語現象に対する様々なアプローチを理解しながら、自らの関心対象を絞り、卒業論文のテーマを決定する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文 1 の紹介・研究計画発表、質疑応答
3. 論文 2 の紹介・研究計画発表、質疑応答
4. 論文 3 の紹介・研究計画発表、質疑応答
5. 論文 4 の紹介・研究計画発表、質疑応答
6. 論文 5 の紹介・研究計画発表、質疑応答
7. 論文 6 の紹介・研究計画発表、質疑応答
8. 論文 7 の紹介・研究計画発表、質疑応答
9. 論文 8 の紹介・研究計画発表、質疑応答
10. 論文 9 の紹介・研究計画発表、質疑応答
11. 論文 10 の紹介・研究計画発表、質疑応答
12. 論文 11 の紹介・研究計画発表、質疑応答
13. 論文 12 の紹介・研究計画発表、質疑応答
14. 論文 13 の紹介・研究計画発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：授業中の議論への参加 50%、発表 50%

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトは、事前に準備し、発表の週の月曜日までに配布すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

Handouts for presentations must be prepared in advance and distributed by Monday of the presentation week.

9. その他：

科目名：言語学論文演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小泉 政利、木山 幸子、内藤 真帆

コード：LB65305, **科目ナンバリング：**LHM-LIN335J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語学研究法 II

2・授業の目的と概要： 3年生は前期に引き続き論文紹介を行いそれを卒業論文にどう繋げるかを発表するか、卒業論文の構想を発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。

4年生は卒業論文の進捗状況を中間発表する。テーマの選択や先行研究のまとめだけでなく、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果と意義、およびその時点までに得られた暫定的な結果とその解釈などについて、できるだけ具体的に発表する。

その日の発表者以外の参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、言語学の多様なアプローチへの理解を深めるとともに、論文を書くための方法を学びとる。

3. 学習の到達目標：よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 論文1の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
3. 論文2の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
4. 論文3の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
5. 論文4の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表
6. 論文5の紹介発表、質疑応答
7. 論文6の紹介発表、質疑応答
8. 論文7の紹介発表、質疑応答
9. 論文8の紹介発表、質疑応答
10. 論文9の紹介発表、質疑応答
11. 論文10の紹介発表、質疑応答
12. 論文11の紹介発表、質疑応答
13. 論文12の紹介発表、質疑応答
14. 論文13の紹介発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：授業中の議論への参加 50%、発表 50%

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：言語学演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：那須川 訓也

コード：LB62208, **科目ナンバリング：**LHM-LIN337J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：音韻論概説Ⅱ

2・授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

3. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の（i）母語の音節構造，（ii）音現象を制御する規則，（iii）文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論と音声学

第2回：英語の音配列論

第3回：きこえ度と音節

第4回：英語の音節構造

第5回：オンセット

第6回：ライムと核

第7回：コーダ

第8回：日本語の音配列論

第9回：日本語の音節構造とモーラ

第10回：音節類型論

第11回：強勢規則

第12回：最適性理論（OT）

第13回：接辞化と音韻規則

第14回：複合語形成と音韻規則

第15回：借用語と音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

5. 成績評価方法：レポート課題×2（60%），確認テスト×1（40%）

6. 教科書および参考書：教科書： 小泉 政利（編）2016.『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版.

7. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：記述言語学演習

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：内藤 真帆

コード：LB63408, **科目ナンバリング：**LHM-LIN338J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：未知の言語の調査と分析

2・授業の目的と概要：未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。

理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います。

3. 学習の到達目標：・未知の言語の調査・分析方法を理解する。

・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別的特徴
6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化

5. 成績評価方法：定期試験（70%）、発表（30%）

6. 教科書および参考書：適宜、資料を配布します。

7. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：理論言語学演習

曜日・講時：木曜 1 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小泉 政利

コード：LB64102, **科目ナンバリング：**LHM-LIN339J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：統語論と文解析

2・授業の目的と概要：この授業では、まず統語論の基本的な概念と原理を学び、その後にさまざまな文解析の分析事例に触れます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

3. 学習の到達目標：統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。
身近な言語現象について自分なりに分析しようとする姿勢を身につけること。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 Guidance
- 2 Where Do Subjects Come From?
- 3 Control and Raising
- 4 Head Movement
- 5 Topics on Sentence-Initial Phrases
- 6 Complex Predicates
- 7 Argument Extraction from DP
- 8 Non-Canonical Case Marking
- 9 Focusing on VP
- 10 Sentence Processing 1
- 11 Sentence Processing 2
- 12 Sentence Processing 3
- 13 Sentence Processing 4
- 14 Sentence Processing 5
- 15 Review and exam

5. 成績評価方法：概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・試験：20%

ただし、筆記試験の答案提出を単位認定の要件とします。

6. 教科書および参考書：教科書

Kishimoto, Hideki. Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective. Hituzi Syobo

7. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：実験言語学演習

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：木山 幸子

コード：LB63211, **科目ナンバリング：**LHM-LIN340J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：言語実験の実践

2・授業の目的と概要：本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらうことを期待します。

3. 学習の到達目標：実証的な言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない（大いに異なる）ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

- (1) テーマ策定
- (2) 研究倫理
- (3) 研究デザイン立案
- (4) 実験・調査準備
- (5) 実験・調査実施
- (6) 取得データ分析
- (7) データの解釈
- (8) 研究のまとめ
- (9) 研究成果の共有

5. 成績評価方法：グループワークへの貢献（50%）、毎回授業の最後に課す小課題（20%）、最終レポート（30%）によって評価する。

6. 教科書および参考書：指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

7. 授業時間外学習：グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください（初回でその意思の確認をします）。その自信がない場合は受講しないこと。